

剪定方法

(1) 大枝の切り方（枝おろし剪定）

太い枝を切除する場合は、安全面、幹・枝の裂け防止や適切な部位での切除が必要です。不適切な部位での切除は、切り口の治癒を著しく遅らせ、樹木を衰弱させるだけでなく、腐朽の原因ともなります。

1) 大枝の剪定位置

適切な剪定位置については、枝の付け根の枝組織と幹組織が混じり合っているブランチカラーと呼ばれる部分を傷つけずに、なおかつ枝組織を残さずブランチカラーに近いところで切断する必要があります。これによってカルスの形成が速やかに進み、腐朽の被害を抑えることができます。

なお、切除する枝の太さや樹種などに応じて、防腐剤を塗布します。

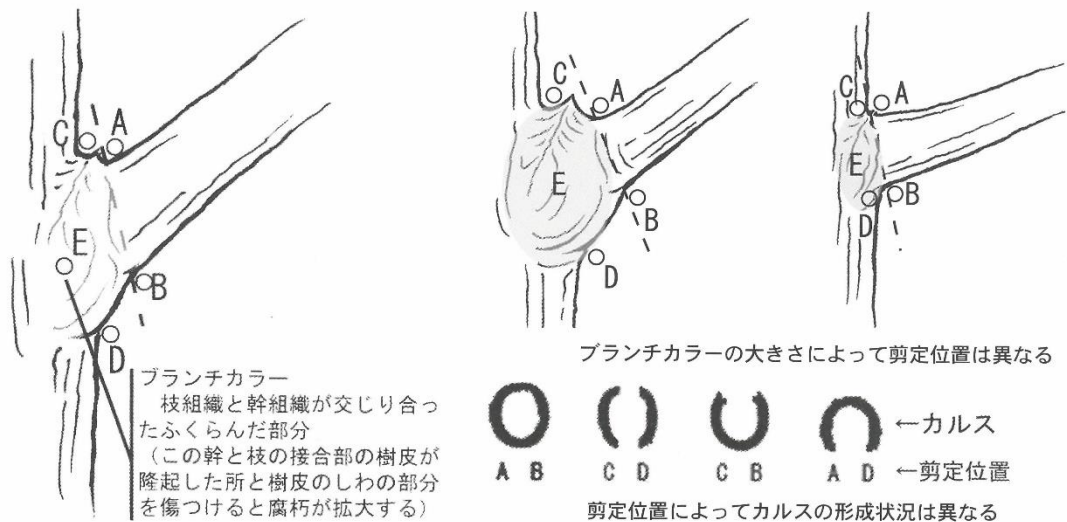


図 5-3 大枝の剪定位置 「街路樹剪定士必携」 p48

① 良い例

適切な位置で剪定すると、カルスの速やかな形成により切断面が早期に覆われます。



② 悪い例

フラッシュカットは、枝の保護帯をつくり出す組織を取り除いてしまうため、カサの正常な発達を妨げ、樹木の主要な防護作用を破壊するだけでなく、傷口周辺の組織内に蓄えられている養分を減少させることとなります。枝を残すと、その枝は活動を停止し、枯れ込む原因となります。枯枝は、健全なカサの発達を妨げ、腐朽菌に侵される原因となります。



2) 二段切り

二段切りは、枝の重さで切り口が裂けることのないよう大枝を剪定する方法です。

① 良い例

①に切込みを入れ、②で枝を切除。ブランチカラーに注意し③で切除します。

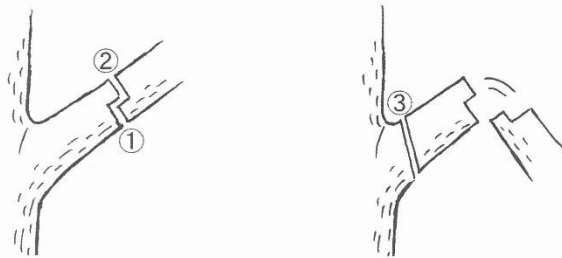


図 5-4 二段切りの良い例

② 悪い例

大きな枝を一度に切ると枝や樹皮が裂け、傷口を広げることとなります。



図 5-5 二段切りを用いなかった悪い例

3) 大枝の吊切り

吊切りは、大枝の落下により他の枝を傷つけないことはもちろん、周囲の家屋などに誤って落下することがないように切断する枝を吊るすことを目的に行うものです。剪定作業者は、作業の指揮者を含め、4名程度の人員が必要となります。

作業はまず、切断枝落下調整ロープを上部反対方向の枝を経て切断枝（A点）に結束、同時に切断枝落下誘導ロープを（B点）に結束します。

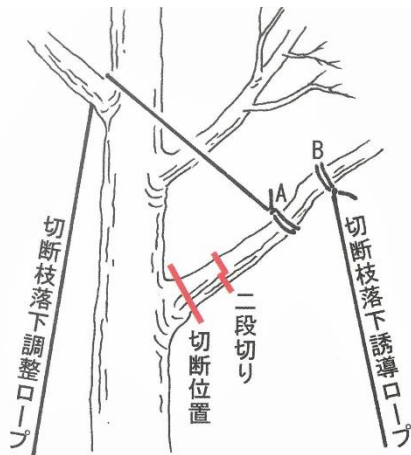


図 5-6 大枝の吊切り

上記のロープに各1名の作業者を配置、剪定作業者は作業指揮者および各ロープ係作業者との意気統合を図り、作業指揮者の指示に従い作業を進めます。

(2) 比較的大きな枝の切り方

鋸を用いて行う比較的大きな枝の剪定は、大枝の剪定と同じく、適切な位置で切除しないと、樹勢を衰えさせるだけでなく、腐朽の原因となります。また、切詰め剪定を行う場合は、それぞれの樹種特性としての枝の出方や伸び方を想定し、管理目標樹形を形成するのにもっとも適切な位置で切除することが大切です。

① 良い例

下の図のように、二股に分かれた枝の一方を剪定する場合は、良い方向に伸びている枝を残して切除します。方向を考慮する必要がない場合は、優勢枝を残して切除します。「○」の位置で切除すると、樹木へのダメージも少なく、枝の肥大生長にともない切除位置が気にならない自然な形状となります。

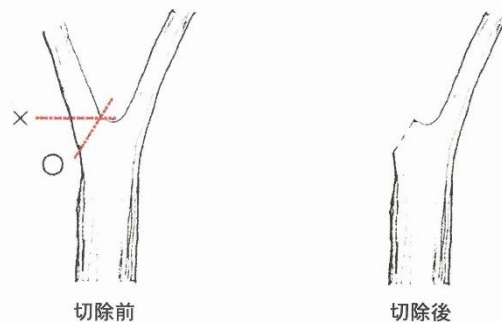


図 5-7
比較的大きな枝の切除位置と切除後（良い例）

② 悪い例

上の図の「×」の位置で剪定すると、切り口をカルスが覆うことができず、腐朽の原因となります。また、切り口が治癒したとしても不自然な枝の形状となります。



図 5-8 比較的大きな枝の切除(悪い例)